

づくりが必要になってくると思います。

市長 ところで、ここ教育委員会庁舎ですが、合併後の本庁機能を担う庁舎として造ったものです。1階が応急クリニックで、2階から上が教育委員会となっている複合施設です。

小松 施設規模をコンパクトにして、管理運営コストを抑えるという意味では、複合化は効果的です。しかし、気を付けなければならないのは、今まで別々の物が1つの館に入っただけの「雑居ビル」にならないようにすることです。うまく機能の融合を考えていただきたいと思います。これは言葉遊びですが、規模やコストがマイナスになった機能同士が一緒に同居するとマイナス+マイナス=マイナスです。

市長 足してもマイナスのままですね。

小松 それが掛け算するとプラスに変わる。今まで違う場所にあったものが一緒になった時に、新しくできることは何か。それが今日的なニーズに応えることだと思います。そういう柔らかい発想ができると新しい21世紀型の公共施設になるんじゃないでしょうか。ただ、公共施設にはそれぞれ法制度があって、役所の部署も縦割りです。これに横串を刺すことが不可欠です。

それから、建物も人間と同じで、長生きするためには健康診断や、ときには治療が必要です。一般的に鉄筋コンクリートの建物は、だいたい40年で大規模改修をして、寿命は60年と言われていますが、これを80年にするにはどうすればいいのかなど、これから考えていくべき課題があります。

市長 本庁舎は昭和54(1979)年の建築で、築38年になります。まさに40年ぐらいのタイミングなので、設備の大規模改修に取り掛からないといけませんね。

次に、学校の有効活用についてお話してください。津市は、小学校48校、中学校19校、義務教育学校1校と多くの学校があります。

小松 どの自治体も学校は公共施設の保有面積の中で1番多いものですから、1番のターゲットになります。学校の機能や空間は非常に多様で、普通教室だけではなく、運動場、体育館、工作室、音楽室、家庭科室などがあり、さまざまなニーズに応えられると思います。例えば、家庭科室や工作室は地域の方も使えますし、音



楽室はコーラスやバンドの練習もできるのではないのでしょうか。体育館やグラウンドだけではなく、テニスコートも使いたい人はいると思います。学校は地域のシンボルなので、地域のニーズに応えるいろいろな機能を入れてあげるといいう考え方も有効です。実際、そういう利用

を念頭に置いた改修や建て替えは各地で始まっています。

それから、どんな管理運営体制を構築するかも大切で

す。行政や学校の先生に全てお任せというわけにはいきませんので、どういうふうに地域側で管理運営するか、空間のデザインだけでなくプロセスのデザインも含めて一緒に進めていくと、スムーズにいくでしょう。

市長 最後に全体を通してアドバイスをお願いします。

小松 4点あります。1つ目は、地域の事情を考慮して地図上での議論をすること。2つ目は、市民のニーズをくみ取り合意形成に至るまでの議論をきちんとデザインすること。3つ目は、マイナス×マイナス=プラスの発想で複合化や共用化を進めていくこと。最後に、縦割りの行政機構に横串を刺すことが大切です。

さらに、具体的なモデルケースができる市民にも理解しやすいのではないかと思います。

市長 本当に有益なご意見をありがとうございます。明るい将来のためにも、これからの公共施設は、財政的にも裏打ちされた状態でしっかりと整備し、運営していきたいと思っています。引き続きご助言のほどをよろしくお願いします。

「雑居」ではなく融合で 新たな価値を創出する